



せせらぎの底には捨石を設置して水の流れる情景を豊かなものに



安全性に配慮した照明は夜景としての演出も



せせらぎに流す水は下水処理場で高度処理した水を再利用

DATA・BOARD ⑫

- ① 神奈川県横浜市鶴見区東寺尾
- ② 延長：960m, 幅員：3.4m
- ③ J R 京浜東北線鶴見駅からバスで東高校前下車・徒歩1分
- ④ 三ッ池公園, 総持寺



12 入江川せせらぎ緑道



横浜市鶴見区では、ゆめはま2010プラン鶴見区計画つるみワンダープランの中で、美しい川の流れときれいな空気に満ちた住む人にやさしい街づくりを計画の目標のひとつに掲げている。

かつての入江川は、湧水を水源とした流れがあり、フナやドジョウも泳ぎ、子供たちの格好の遊び場だった。しかし、周辺の急激な都市化の進展により湧水は減少し、家庭排水が流れ込むことも重なって汚染が進み、人を遠ざける川になってしまった。

これまで横浜市の整備事業では、水路を埋立て下水道の敷設を行い、道路へ所管換えする手法が取られていたが、こうした手法を再検討し、人が集う入江川を復活させるために「入江川せせらぎ緑道」の整備が進められた。

整備にあたっては、水源に下水処理水を使用するとともに、遊歩道や緑地帯を設けることにより、快適な水辺空間の創出を図った。せせらぎには、水の存在をアピールする流れや音を演出させるために、川底に捨石を配置したり、適度な蛇行や勾配により流れを調整することにより変化を付けている。また、植生ロールや自然石などを使用し、水深のある部分をつくり水生生物の生息環境にも考慮している。

歩道部分は、車椅子の利用者に配慮した路面舗装を行っており、沿道は子供たちの通学路や遊び場、地域の人々の散策や憩いの場として親しまれ、人の集う水辺が復活した。